

平成21年 6月16日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2006～2008

課題番号：18700676

研究課題名（和文）地域祭礼にみる仮設構築物のおりなす文化的景観に関する調査研究
研究課題名（英文）THE STUDY ON THE FIGURE OF NON-DAILY LANDSCAPE IN THE FESTIVAL

研究代表者

梅干野 成央（HOYANO SHIGEO）

信州大学・工学部・助教

研究者番号：70377646

研究成果の概要：本研究は、伝統的な祭礼が数多くのこる長野県の最北部に位置する飯山市を主な調査対象地とし、祭礼にともなって仮設構築物があらわれることで形づくられる非日常的な景観の仕組みを建築学の立場から捕捉した。さらには、この研究成果をふまえ、主に日々の日常的な景観を対象としていた従来の景観保護の枠組みのなかに、祭礼の非日常的な景観の保護を積極的に含めた新しい景観保護の考え方を提案した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,200,000	0	1,200,000
2007年度	500,000	0	500,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	150,000	2,350,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：文化財科学・文化財科学

キーワード：祭礼，景観，日常，非日常，建築，有形，無形，文化財

1. 研究開始当初の背景

伝統的な地域の祭礼では、地区総出で、祭礼の前に幟や大灯籠、舞台、山車などの仮設構築物を組み立て、祭礼の後に解体する。このような組立式の仮設構築物が祭礼にともなってあらわれることで、集落の景観は日々の姿から祭礼の姿へと一時的に変化する。こうした、祭礼にともなって形づくられる非日常的な景観は、我が国の文化を象徴するきわめて重要な景観であるといえる。一方、地域の祭礼は、経済的な理由や担い手の不足から徐々に失われつつあり、その景観の保護

は目下の急務であるといえる。

今日、景観法や文化財保護法において、景観が重要視されるようになった。とりわけ、地域の歴史や文化などと密接に関わる固有の風土的特色を保護するために文化的景観の概念が導入されたことで、景観保護の枠組みは格段に充実したといえよう。とはいえ、現行の景観保護の枠組みは、主に日々の日常的な景観を対象としており、祭礼の非日常的な景観を対象とした観点を欠いているといえ、その枠組みを再考する必要があると考える。

2. 研究の目的

上記の背景をうけ、本研究は、祭礼にともない仮設構築物があらわれることで形づくられる非日常的な景観の仕組みを建築学の立場から捕捉することを目的とする。さらには、この研究成果をふまえ、主に日々の日常的な景観を対象としてきた従来の景観保護の枠組みのなかに、祭礼の非日常的な景観の保護を積極的に含めた新しい景観保護の考え方を提案する。

3. 研究の方法

本研究では、長野県の最北部に位置する飯山市を主な対象地とした。長野県飯山市は、中央に千曲川が流れ、千曲川以西は岡山地区、太田地区、外様地区、富倉地区、常磐地区、柳原地区、飯山地区、秋津地区の8地区からなり、千曲川以東は瑞穂地区と木島地区の2地区からなる。これらの地区には、伝統的な祭礼が数多く伝えられており、とりわけ、本研究では秋津地区と瑞穂地区の祭礼について調査を行った。調査では、祭礼とその準備・片付けの内容を把握し、祭礼の前後に組み立てと解体が行われる仮設構築物の姿とその工程を把握した。なお、ここでいう仮設構築物とは、土地に固定されたものをさし、持ち歩くことのできる構築物については、調査の対象から除外した。



長野県飯山市の位置図

以上の調査をふまえ、祭礼にともない仮設構築物があらわれることで形づくられる非日常的な景観の仕組みを建築的に考察した。

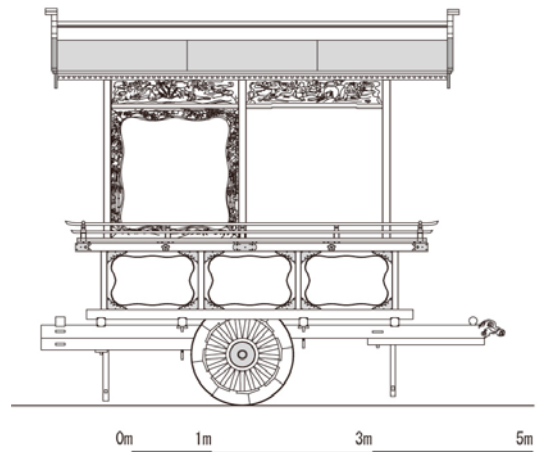
さらには、この研究成果をふまえ、祭礼の非日常的な景観の保護を積極的に含めた新しい景観保護の考え方を提案した。

4. 研究成果

以下、調査研究の成果に即して、祭礼の非日常的な景観の保護に関して得た知見とその位置づけを示す。

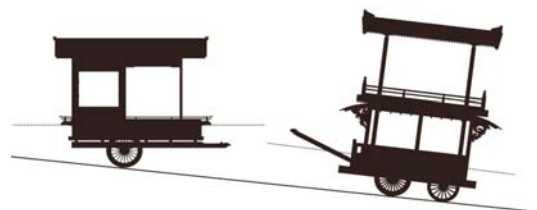
(1) 地域性に即した仮設構築物の調査研究およびその保護 [秋津地区の祭礼]

飯山市には、秋津地区の北畑区と中組区と大久保区と蓮区と上組区に、組立式の屋台が伝えられている。これらの屋台の組立てと解体および、その形態を把握し、仮設構築物の地域性について考察した。



飯山市秋津地区大久保区の屋台

飯山市の屋台は、どれも一層二輪の形式であった。一層二輪の形式の屋台は、周辺部では、長野市、須坂市に分布しており、一方で、その外縁にあたる松本市、大町市、池田町などの屋台は二層四輪の形式であった。一層二輪の形式の屋台がある飯山市、長野市、須坂市は、屋台の巡行路の地形に坂が多い。一層二輪の形式の屋台は、坂道でも床を水平に保つことができ、機動力も優れている。飯山市をはじめ、長野市、須坂市の屋台が一層二輪の形式である理由の一つには、このような地形との関係があることを指摘した。



一層二輪の屋台と二層四輪の屋台

このような、屋台と地形の関係は、屋台の地域性を示しているといえる。これまで、屋台と地形の関係について述べた論考はなく、この視点を含めて屋台の研究を推進し、こうした研究にもとづいた屋台の保護を進めていく必要がある

(2) 無形文化財と有形文化財の統合 [瑞穂地区の祭礼]

飯山市瑞穂地区は、北原区、柏尾区、笹沢区、針田区、小菅区、関沢区、神戸区、福島区、富田区、中組区、戸那子区の計 11 区からなり、それぞれの区では、神社の祭礼が個別に行われる。

これらの祭礼を対象として、神事の前後に組み立て・解体が行われた構築物を把握し、祭礼にもなつてがらりと変化する景観の仕組みを捕捉した。



幟の組み立て (飯山市瑞穂地区柏尾区)

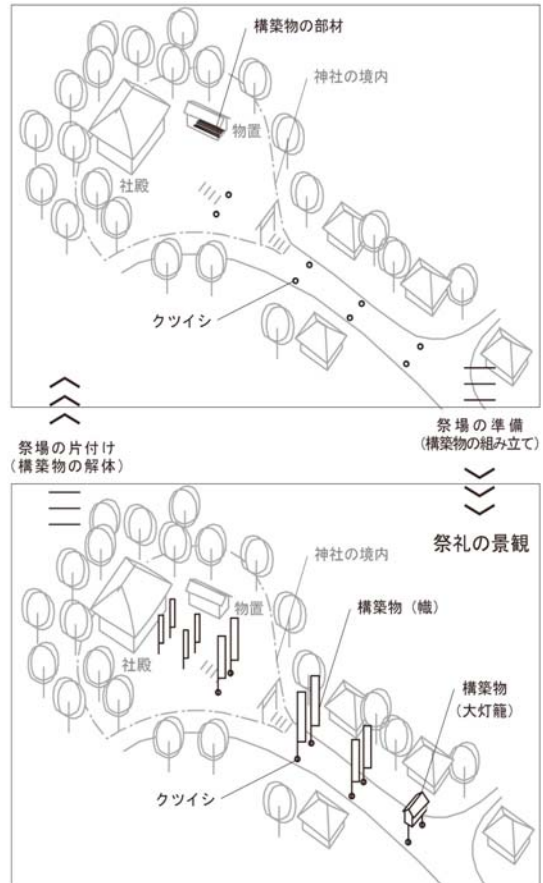


大灯籠の組み立て (飯山市瑞穂地区柏尾区)



瑞穂地区の祭礼では、神事の前後に、区民の方々の経験的知識にもとづいて、幟や大

籠など、10 種 117 の構築物の組み立て・解体が行われた。これらの構築物は、作成された当初の形と位置を保ちつつ、祭礼にもなう祭場の準備・片付けという一連の宗教的ないとなみに即して、周期的に再現されてきた。この、作成された当初の形と位置を保つ構築物が祭礼に即して周期的に再現される、という構造によって形づくられる祭礼の景観は、当初から変わることのない静的なもの、日々ゆるやかに変わりゆく動的なものが重なり合う、異時同図としての景観である。



祭礼の景観 概念図

異時同図としての景観は、有形の構築物なしに成立しない。ましてや、無形の組み立て・解体なしにも成立しない。この景観は、有形の構築物と無形の組み立て・解体とが相互に作用することで、祭礼に即して周期的に再現されてきた。この、祭礼の景観にみる、有形と無形の相互作用は、有形と無形に二極分化した従来の文化財保護制度の限界を指し示すとともに、有形と無形の統合的な文化財保護制度の必要性を示している。

(3) 日常と非日常の相互的な景観保護 [瑞穂地区の祭礼]

瑞穂地区の小菅区では、三年に一度、柱松行事とよばれる神事が執り行われる。柱松行

事とは、草木を束ねて大きな柱をつくり、先端に御幣や榊をつけ、これに点火し、火の燃え付き度合いで年占を行う行事である。柱松は、神を招く迎え火、送り火と同じ機能を持ち、火の呪力で悪霊を払うとされる。

これまで柱松神事に関する研究は民俗学で数多く行われてきた。その中には、柱松神事の歴史について詳しく説明しているものがある。これらの研究成果をふまえ、本研究では、新たに小菅区にのこる柱松神事について実測調査とヒアリング調査を行い、柱松神事が行われる場につく構築物の姿と、その組み立て工程を把握した。

小菅区の柱松行事では、36の構築物が設けられた。とりわけ、神との交流の場となる祭場につく仮設構築物（柱松、御旅所の囲い、幟、緋旗、吹き流し）に着目し、そのすべてに、山から切り出された草木が用いられていたことを指摘した。

幟、緋旗、吹き流しの頭部にスギの葉を取り付け、御旅所を草木で囲うことで神を迎える準備をする。そして、草木を束ねてつくった柱松に神をおろす。こうした、山の草木を介して里に神を迎え降ろすという一連の宗教的ないとなみは、まさに、非日常的な祭礼と日常的な山との相互関係に裏付けられているといえ、祭礼の非日常的な景観と日々の日常的な景観の相互補完的な景観保護の必要性を示している。



柱松づくり（飯山市瑞穂地区小菅区）



柱松神事の準備がととのった祭場（飯山市瑞穂地区小菅区）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計1件）

- ① 梅干野成央、土本俊和、茅野昌登、祭礼を彩る建築のいとなみ—長野県飯山市瑞穂地区の夏祭りを事例として—、信州と地域、4、1-14、2007、査読無し

〔学会発表〕（計5件）

- ① 波多野貴壽、梅干野成央、土本俊和、奥信濃の柱松神事にみる祭の景観、日本建築学会大会学術講演会、2008年9月20日、広島大学
- ② 梅干野成央、土本俊和、岩渕敦、長野市問御所町の祭礼屋台、日本建築学会大会学術講演会、2007年8月29日、福岡大学
- ③ 岩渕敦、土本俊和、梅干野成央、飯山市静間の祭礼屋台における建築の組み立て、日本建築学会大会学術講演会、2007年8月29日、福岡大学
- ④ 梅干野成央、土本俊和、岡本茂、長野市上西之門町弥栄神社の仮拝殿、日本建築学会大会学術講演会、2006年9月7日、神奈川大学
- ⑤ 茅野昌登、梅干野成央、土本俊和、祭礼空間を彩る構築物の実体—長野県飯山市瑞穂地区における地域祭礼—、日本建築学会北陸支部大会研究発表会、2006年7月9日、福井大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

梅干野 成央 (HOYANO SHIGEO)
信州大学・工学部・助教
研究者番号：70377646

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし